

# 1 若年性認知症に関する基礎知識

## 若年性認知症とは

認知症とは、いろいろな原因で脳の細胞が死んでしまったり、働きが悪くなったために様々な障害がおこり、生活する上で継続的に支障が出ている状態を言います。(概ね6か月以上、その状態が継続した場合)

認知症を引き起こす疾患は、実に70種類以上もあると言われています。

若年性認知症とは、18歳から64歳で発症する認知症を言います。高齢者の認知症と病理学的な違いはありませんが、高齢で発症する場合とは異なる社会的、家庭的問題を引き起こします。周囲の人ができるだけ早く気づき、原因となる疾患に応じた適切な支援につなげることが大切です。



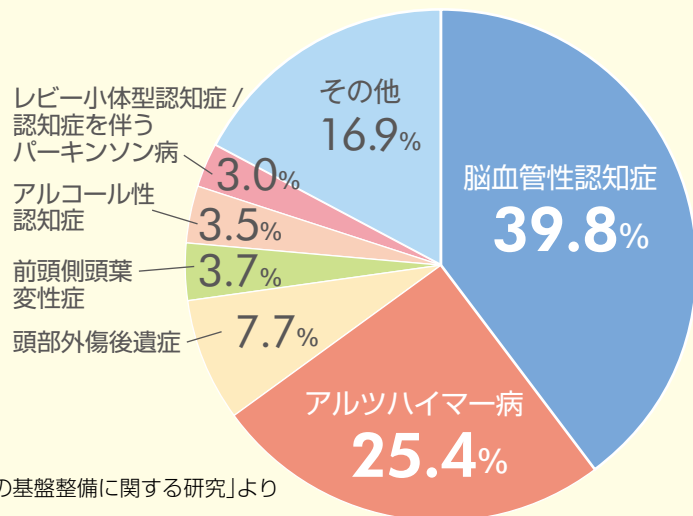
## 原因疾患

若年性認知症を引き起こす主な原因疾患は

- ①脳血管性認知症
  - ②アルツハイマー病
  - ③前頭側頭葉変性症
  - ④レビー小体型認知症
- です。

認知症は原因疾患によって、症状の現れ方や治療方法が異なります。

出典「若年性認知症の基礎疾患」  
H21年3月厚生労働省発表「若年性認知症の実態と対応の基盤整備に関する研究」より



## 症 状

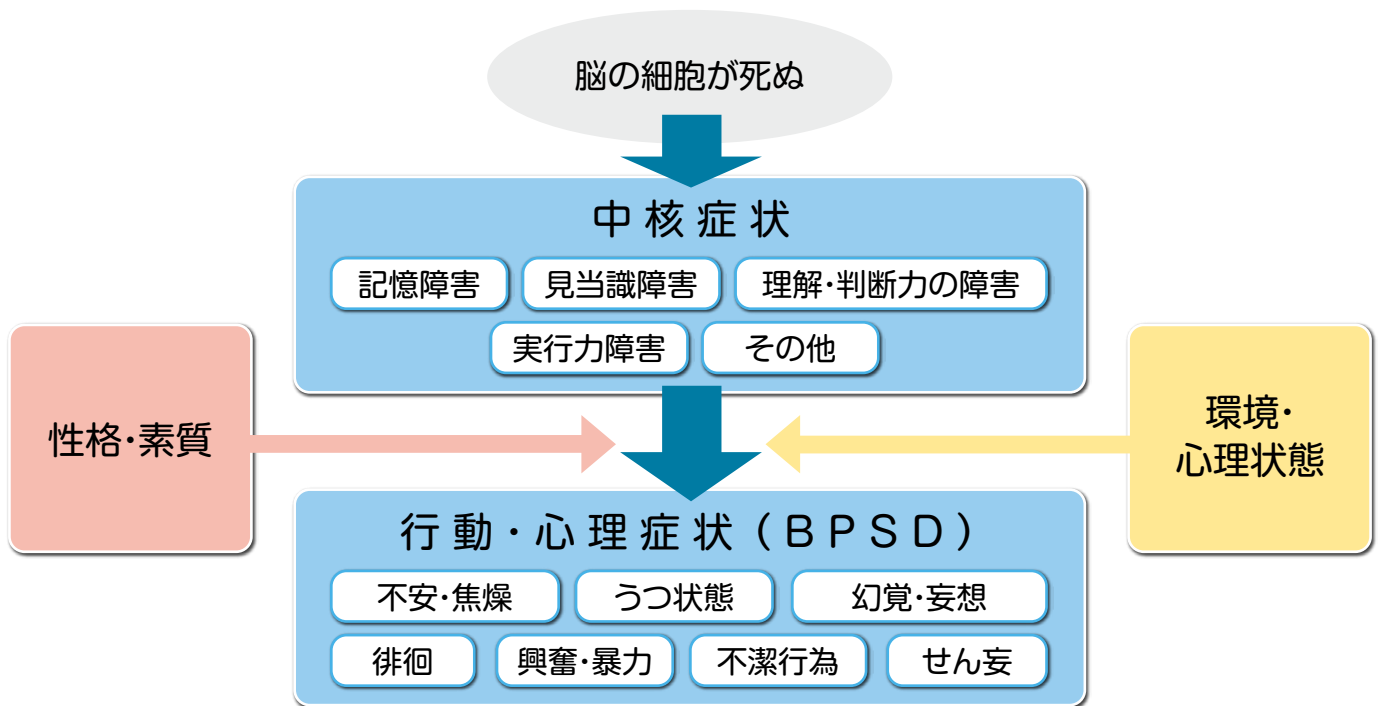
認知症の症状は大きく分けて2つあります。

### ①中核症状

脳の細胞が死んでしまうことによって起こります。程度の差はありますが、必ず見られる症状です。認知症の経過と共に進行していきます。

### ②行動・心理症状 (BPSD)

中核症状に加えて、その人の性格や気質、生活環境や人間関係が複雑に絡んで見られます。全員に見られるわけではありません。また認知症の重症度とは必ずしも一致しません。



### ◎早期発見・早期受診・早期治療の意義

おかしいと感じたら、勇気を出して受診しましょう。認知症を引き起こす疾患の中には、早く受診することで治る見込みがあるものや、症状の改善や進行を遅らせることができるものもあります。生活の質を良い状態に保ち、自分や家族の今後の生活についてしっかり考える時間を持つことができます。放置して治療のタイミングを逃すことがないようにしましょう。

### ◎若年性認知症かな？のサイン

#### ～日常生活の中で～

- 大事な約束を忘れる
- 忘れ物が多くなる
- 同じ料理ばかり作るようになる
- 何度も同じ買い物をする
- お金を無計画に使う

#### ～仕事の中で～

- スケジュール管理ができなくなる
- 失敗が増える
- 複数の作業を同時並行できなくなる
- 段取りや作業効率が悪くなる

#### ～性格の変化～

- 趣味に興味がなくなる
- 意欲がでない
- 人前に入るのを嫌がるようになる
- 考えがまとまらない
- 性格が変わったように感じる
- 怒りっぽくなる

### ～ご本人の気持ちを理解しましょう～

「若年性認知症」のサインは、周囲の人から見ておかしいと感じることですが、はじめに気づくのは本人です。「いつもの自分と違う」「最近調子が悪い」「いつもの仕事でなぜ失敗したのだろう…」など、自分の中に起こっている変化に本人が気づかないはずはありません。気づいた時の本人のショックは大きく、やり場のない不安や悲しみを感じています。周囲の人が「認知症という病気になった人」の本当の心を理解することは容易ではありませんが、認知症の人の不安や悲しみという心の内を知った上で本人と接することが大切です。